



令和5年度 羽田中学校だより

天空の橋

令和5年7月20日 7月号

目指す生徒像・・・

Heart
Never Give Up
Do Our Best
大田区立羽田中学校

コロナを超えて、コロナ前以上の学校にしよう

一学期が終わりました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が2類から5類に移行し、ほぼコロナ前の活動に戻すことができました。体育祭では、例年通りの応援団を中心にした応援合戦が行われ、羽田中らしい生徒が成長する体育祭を行うことができました。また、修学旅行では体験学習を含めた自主的な班行動を計画し、3年間の集大成としての活動を行うことができました。5組の移動教室でも、合同で行った他校とのキャンドルファイヤーで、自校の紹介クイズなどを堂々とする姿が見られました。いずれの取組も、事前の準備からしっかり行うことで大きな成長が見られています。

大きな変化は、地域活動が復活してきていることです。そして地域に向けたボランティア活動も行われるようになりました。4月のガーデンパーティは残念ながら雨で中止になってしまいましたが、2学期には祭礼の運営準備、糀谷地区の連合運動会などが行われる予定です。また、ここ数年なかった学校防災拠点訓練も実施する計画が進んでいます。

先日、7月16日の日曜日には、羽田神社のお祭りに向けた「提灯張り」のボランティアがありました。青年会とともに、地域に提灯をつり下げていく作業です。暑い中、ボランティアの生徒は、地域の方とともに熱心に準備を行っていました。

このようなボランティアは、とても重要だと思っています。地震や大雨などの災害が起こったとき、中学生は支援を受ける側というだけでなく、地域を支え支援をする立場となります。中学生が地域を支える大きな役割を負うのです。そのとき、地域の方と顔見知りになっており、組織的に動けるようになっていることは非常に大きいことだと思います。

どの地域でも、中学生になると地域の活動と離れてしまい、地域の文化の引き継ぎ手が少なくなってしまう現状があります。羽田中の生徒が、地域の皆さんと触れあい、自然に地域の活動の担い手になってくれたらこんなうれしいことはありません。

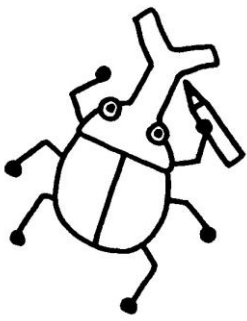
とはいえ、ここ数年のコロナ感染症により活動がなかった影響は大きいと思っています。小学校時代、地域での活動がなくなり楽しんだ経験がありませんでした。中学校でも、活動がなくなりボランティア等で他者に貢献する喜びを経験することがありません。

コロナ前に比べ、他者貢献意識・社会貢献意識が低くなり、ボランティアに参加しようという気持ちが少なくなっているようです。再度、学校でボランティアの意識を高める教育を行う必要があると感じています。

2学期は、1学期以上にボランティアの募集があると思います。コロナ前よりもさらに地域とつながり、他者や社会に貢献しようという気持ちをもった生徒が多い学校にしていきたいと願っています。

自分だけの達成を目指すのではなく、学級・学年・学校、ひいては地域社会を形成することができる力をつけるよう2学期は努力していきましょう。





職業準備性は、どれくらいできていますか？

7月5日、5組では都立志村学園の先生をお招きし、学校説明会を開催しました。就業技術科や職能開発科の説明、その違いや学校生活の説明をしていただきました。

その中で、「職業準備性ピラミッド」というものについての説明がありました。就職するにあたって、どのような準備が必要かを説明したピラミッド図です（下図参照）。ピラミッドの下の方ほど、就職するにあたって基礎的で必要な事項ということになります。これを見ると、職業適性（その職業に適正があるか、職業に適した能力があるか）は、一番最後です。

まずは健康。そして、日常的な生活管理（規則正しい生活）ができるかどうか、職業につくときには重要だということになります。また、対人スキル（あいさつができる、人間関係を円滑に保てる）もその次に重要であり、さらに基本的労働習慣（遅刻をしない、一日中働ける）も必要になります。この話を聞いて、5組だけではなく、全ての中学生に大事なのではないかと感じました。働くことは非常に大変です。実は、学校に通っている方が楽なところがあります。学校に通っているうちに、「生活リズムを保ち、健康を維持する（健康管理・日常生活管理）」「あいさつができるようにする・人間関係を円滑に保つ（対人スキル）」「遅刻をしないで通う」ことができる能力をつけ、職業につく準備をすることになります。

それができないと、就職しても、辞めてしまうことになる……。

皆さんはその準備がうまくできていますか？

図で見る職業準備性ピラミッド

